

平成 29 年度 第 2 回福祉センター運営委員会会議要旨

1. 日 時 平成 29 年 10 月 30 日 午後 3 時 30 分から午後 5 時 15 分
2. 場 所 福祉センター やまなみ荘
3. 出席者 委 員：太田 譲、字引文威、瀧澤龍一、市川寿明、種子光江、
腰原幸朗、曾根原ふさ子、山本みさを、久保田茂樹、
平林敏生
村 長：藤澤泰彦
事務局：藤澤正司、宮澤ふさ子、牛越 実
(説明者)

4. 協議事項

(1) 平成 29 年度の運営状況について

説明事項

・平成 29 年度 9 月末までの収支状況は、歳入は食堂の利用を中心に前年を上回っているものの、歳出も需用費の増加などにより前年より増加しているため差引額が前年より 19 万円減少している。需用費の増加要因としては、調理材料費は原材料費の全体的な値上がり、光熱水費は夏場の天候不順もあり太陽光発電量が減少したことによる電気代の増加、施設内の水道漏水（7 月修理済み）による水道料の増加などである。今年度の取り組みとしては、海鮮丼の継続、バーベキューコンロの利用、平日の客室利用率の向上の取り組みをしており、今年度後半の新たな取り組みは、料理コンテスト最優秀賞受賞作品の提供、観光協会と連携した車いすパラグライダーの受入れなどで、ひすいそばを使った新そば祭り、年末年始の営業なども例年どおり行う。

委員からの質問

Q：人件費（パート人件費含む）が減っているが理由は。

A：毎日の食堂営業のスタッフは確保しなければならないが、宿泊や宴会の利用者が減ると洗い場や清掃などの職員は少なくて済むため、パート賃金が減っている。仲居などの繁忙時の超過勤務に対しては、手当を支払っている。

Q：経費の節減に努めているが、調理材料費が原材料の高騰により増えているという説明だが、どの様なものが上がっているのか分析はしているか。

A：全般です。特に水産物や精肉のほしいものが入らないこともあるため、先を見据えて買っているものもある。鮮魚は直接産地から買い付けをして、送料はかかるが中間経費の節減を図っている。消費税の引き上げを見据え一度値上げをしているので、価格に転嫁させていくことは難しいので、サービスの低下をしないよう知恵を出し合い対応していく。

Q：海鮮丼は評判がいいが、原価率は。常時提供することは考えられないか。

A：海鮮丼の原価率は50%程度で、宴会料理などと比べると高い。海鮮丼の材料は、常時仕入れているものを使っているのではなく、その時のみの特別なものを仕入れている。宴会でもミニ海鮮丼の提供ができるため、宿泊・宴会で再び利用してもらえるように、広告宣伝、セールスに努めたい。

(2) その他

○2017信州いくさか料理コンテストについて

説明事項

・新たな料理を開発し、地域づくりに取り組んでいくため地域発元気づくり支援金を活用し料理コンテストを実施した。募集期間、応募数（計59作品）、審査方法、最終審査の状況・審査結果、村内での提供等について。

委員からの質問

Q：最優秀賞作品はいつから食べることができるのか。優秀賞などは食べられないのか。

A：最優秀賞作品は、洋食ゆったりプラン、鍋プランでPRを始めています。その他の作品は、特別フェアのような形で提供していきたい。

Q：料理コンテストの実施に要した経費はいくらか。

A：総額約450万円、うち元気づくり支援金約280万円、対象経費はテレビ番組の制作費、テレビ・ラジオでの告知、ポスター・チラシ代、審査員謝礼等。

○その他

委員からの質問・意見

Q：料理の量が多いと感じるが、残されるものも多くあるのでは。検討が必要では。

A：品数を少なくすることはできないので、質や内容でお客様の要望に応えるようにしたい。

Q：28年度に比べ宿泊者数が減っている要因は。

A：仕事で利用される方が減っている。継続して利用していただいていた団体の利用が無かった。同級会や家族会等も毎年同じ場所ではなくということで、違う所に行かれる方もいる。

○質疑終了後、料理コンテストの特別番組を視聴

午後5時15分終了